日本一稼ぐ弁護士の仕事術

How to Change Your Work and Your Life by Changing Your Mind.

弁護士・実業家・冒険家
福永活也
Katsuya Fukunaga

CROSSMEDIA PUBLISHING

はしがき

『日本一稼ぐ弁護士の仕事術』とは、なんとも炎上必至の仰々しいタイトルですが、私は稼ぐこと自体を大切に思っているわけではありません。そして、本書も稼ぐことを第一の目的として何かをお伝えする本ではありません。一方、依頼者や消費者のニーズに応え、市場から評価されることが稼ぐことに繋がるのも事実なので、いわば収入はビジネスにおける通知表といえます。逆に「稼げない」、つまり市場から評価されていないのに、やり甲斐や、社会のため、と言ったところで自己満足に陥りがちです。そうである以上、「稼ぐことができる力」はとても大切です。

例えば二宮金次郎は「経済なき道徳は寝言である」と言っていますし、日本マクドナルド株式会社の創業者である藤田田さんも「日本人は金儲けを軽蔑するが、金儲けができないのはバカだと思うようにならなければならない」とまで言っています。

私は弁護士になってから、最初の2年間を弁護士法人北浜法律事務所の東京事務所で、次の2年間を東日本大震災の被災者支援のために国が設立した株式会社東日本大震災事業者再生支援機構の東京本部で、それぞれ勤めた後、２０１４年、弁護士5年目にして独立しました。当時の都心の弁護士にしては比較的早いタイミングでの独立です。

独立した理由は、本当に自分がやりたいことに最大限熱中し、自分の望むライフスタイルを実現させたかったことと、自分の通知表である収入によって、市場からどれだけ評価してもらえているかを直接感じたかったからです。

弁護士の年収（売上）ランキングは公表されていませんが、課税所得（年収から経費等を控除して個人に帰属する利益）については、国税庁から主たる収入を弁護士とする人達の所得レンジごとの該当人数が公表されています。

私は独立後2年連続して、誰も雇わずただ一人で、弁護士業として得た収入のみで、国税庁統計の所得レンジでは最も高い5～10億円のレンジに入り、弁護士業に関しては、日本一稼ぐ弁護士となることができました。

もちろん、当時いつも収入を考えて仕事をしていたわけではありません。クライアント

第 140 回国税庁統計年報書 平成 26 年度版 所得種類別 (業種別) 人員、所得金額 (合計)152 頁より抜粋

区分	所得階級別人員数									
	2 億円以下		5 億円以下		10 億円以下		20 億円以下		50 億円以下	
		主たるもの		主たるもの		主たるもの		主たるもの		主たるもの
弁護士	人 263	人 244	人 48	人 45	人 6	人 6	人 —	人 —	人 —	人 —

第 141 回国税庁統計年報書 平成 27 年度版 所得種類別 (業種別) 人員、所得金額 (合計)150 頁より抜粋

区分	所得階級別人員数									
	2 億円以下		5 億円以下		10 億円以下		20 億円以下		50 億円以下	
		主たるもの		主たるもの		主たるもの		主たるもの		主たるもの
弁護士	人 261	人 245	人 63	人 57	人 8	人 7	人 1	人 —	人 —	人 —

は馬鹿ではありませんから、競合もいる中で、「お金第一」の気持ちで仕事をしていて市場から評価されることはありません。実際、私はお金以上に仕事を通じた自己成長や、クライアントからの感謝、社会貢献の一助となれる喜びを感じる毎日に、心身の隅々まで満たされていました。それほど仕事に取り組むこと自体に心躍る毎日だったのです。ただ、改めて収入という名の通知表を見てみると、市場から評価される何かがあったからこそ、結果を出すことができたのだと思います。

また、独立後3年目以降は仕事以外のことにも熱中していくようになりました。その一つが、冒険への挑戦です。

冒険家の世界では、エベレストを含む世界七大陸最高峰の山頂と、北極点及び南極点の全九極地点に到達することを冒険家グランドスラムと言います。冒険家のスタンプラリーのようなもので、世界でまだ１００人も達成していません。

冒険家グランドスラムは、国民栄誉賞受賞者である植村直己さんのような真の冒険家の方々が挑戦していた冒険と比べると安全で簡単な冒険です。それでも、私のような一般人にとっては、これに挑戦できるだけの体力、気力、時間、資金を満たすだけでも十分な難易度があり、いわば人生という冒険の中では大きな目標になります。何せ、エベレスト登頂であれば2ヵ月間丸ごと日本を離れて山に籠る必要があり、費用も１０００万円程かかります。

私は２０１５年秋頃から少しずつ体を鍛え直し、冒険へのモチベーションを高め、時間とお金を確保し、自分が日本を離れられる体制を整え、一つ一つの冒険に挑戦していきました。２０１９年7月時点で、エベレストを含む世界七大陸最高峰の登頂と南極点到達を果たし、残るは北極点到達だけとなっています。

他にも思いついた事業や趣味は、片っ端から試すようにしています。いずれにしても自

分なりに、仕事でも、趣味や遊びでも多くの自己実現を果たし、楽しい毎日を送っています。

ただ、自分の人生を振り返ってみて、他人と比べて何か特別な能力、スキル、人脈があったかと言えば決してそうではありません。

私は、三重県伊勢市という田舎出身で、父親は高卒の会社員、母親は小さな土産物屋の自営業をしていました。裕福でもなければ、特別なコネがあったわけでもありません。それどころか、父親からは長い間、精神的な虐待を受けていました。また、生まれながら身体面に不安もありました。１９００ｇに満たない未熟児として生まれ、高校生の時には今では難病に指定されているＩｇＡ腎症という慢性腎炎に罹患しました。

長い間、本当に取るに足らない実績しか残すことができていませんでした。高校は地方の公立高校で、常に平均以下の成績でしたし、進学した名古屋工業大学工学部は特別有名な大学、学部ではありません。大学在学中も勉強に打ち込めずに漫然と卒業し、何の目的意識も持てずに、専攻とは全く関係のない住宅の外壁リフォームの飛び込み営業の会社に就職しました。

就職後も毎日、怠惰な仕事をするのみで何も楽しいと思えず、会社にもいづらくなり、わずか2ヵ月で退職してしまいました。その後、生活のためだけに24歳までフリーターとしてレンタルビデオ店でレジ打ちや品出しのアルバイトをしていました。しかし、このアルバイトでさえ、真面目に働くことができず、商品の陳列や包装の仕方が悪いといつも先輩に怒られ、不甲斐ない毎日を送っていました。

そんな中、長い間私を精神的に追い詰めていた父親が病気で亡くなったことをきっかけに、自分の人生を見つめ直し、「本当にいつまでもこのままでいいのか」と思うようになりました。自分のため、社会のために何かに熱中できる日々を送りたい、と。丁度その頃、当時流行っていた『カバチタレ！』という行政書士をテーマにしたテレビドラマを観て、法律に興味を持ったのです。

ドラマ内で初めて耳にした法律用語を友達に使ってみると、何となく格好良くなった気がしました。その後、試しに行政書士試験の勉強を始めてみたところ、法律の勉強が凄く楽しかったのです。試験にはあえなく落ちてしまいましたが、生まれて初めて勉強が楽しいと思えた瞬間でした。その後、人生をやり直すために一から勉強し弁護士を目指そうと、

関西大学法科大学院（ロースクール）に進学することを決意したのです。

司法試験に合格できる自信は全くありませんでしたが、主体的に取り組む勉強を楽しいと思えていたおかげで、3年間の法科大学院在学中、努力を少しずつ積み重ね、無事、初受験で出願者数７８４２人、合格者数２０６５人の内56位というまずまずの成績で合格することができました。その後、弁護士として一定の成果を上げることができたのはお話しした通りです。

大した能力も実績もなかった私が、結果的に一定の実績を残すことができた理由を考えてみると、私は自分なりに楽しいと思えることを探し、その対象が見つかると、とことん一生懸命に、かつ楽しみながら取り組むことが得意なのだと気が付きました。そして、挑戦の原動力となるモチベーションを高めて維持するための行動指針を数多く持っていることに気が付きました。この行動指針こそが「誰でもできることを、楽しみながら、誰よりもとことんやり続ける」ための秘訣でした。

私は幼少期から引っ込み思案で根暗。両親との関係も良好ではなかったため対話できる

相手も少なく、自分で自分に語り掛ける機会が多い環境で育ってきました。そのため、自分の考えや感情を客観視し、言語化して理解することがいつの間にか得意になり、逆に言語化された行動指針で、自分の考えや感情をコントロールすることも得意になったのではないかと思います。

本書に限らず、自己啓発書やビジネス書の多くには「今を大切にして、新しいことにどんどん挑戦し、熱中しよう」、「挑戦への不安をなくし、楽しみを感じられるようになろう。そうすれば、仕事もそれ以外も必ずうまくいく」といったことが書いてあります。このようなことは誰もが何度も耳にしているはずです。しかし、人間は怠惰な生き物です。辛いことは避けてしまうし、飽きるし、素直になれない。あるべき姿を抽象的に語られたところで、その姿勢を貫くことなど中々できません。

大切なのは、抽象的な考え方を、日々自分に言い聞かせられるツールにまで落とし込むことです。具体的に言語化し、日常の行動指針にしていくことです。

そのため、本書では、私がこれまでいろんな場面で気付き、磨き、実践してきた様々な

考え方やエピソードをお話ししていきます。

結論ではなく、自分にしっくりくる具体的な言葉やエピソードを探していただくことが大切なので、同じ内容でも違う言い方でお話ししている箇所もあります。

まずChapter 1では、仕事をしていく上で最も大切な仕事の考え方、取り組む姿勢についてお話しします。精神論も交えた話になりますが、「誰でもできる当たり前のことを、誰よりも楽しく目一杯やり続ける」ためには、日々の業務にいかにポジティブに取り組み、楽しみを取り入れていけるかが重要です。

次にChapter 2では、具体的な仕事のやり方について、私が工夫していることや意識していることについてお話ししていきます。Chapter 1でお話しするような仕事の考え方の実践編です。様々な考え方や行動パターンを日常業務の中に落とし込んで習慣化していくことが大切です。

最後にChapter 3として、仕事から発展して「人生の考え方や楽しみ方」についてお話しします。仕事は結局人生の楽しみの一つに過ぎません。仕事の楽しみをどう人生の楽しみに広げていくかは大切です。また、仕事そのものを発展させていくためにも、人生におい

て趣味やプライベートの活動で学んだことを活かすことも重要です。

なぜなら、これからお話ししていく様々な考え方は、知識として知るのではなく、実際に人生に役立つことを身をもって経験し、自分の考えとして理解して初めて、自らの行動指針となってくれるからです。そして、仕事に比べて趣味の場の方が、結果を問われずに挑戦できます。また、仕事であれば対等な相手しか付き合う機会に恵まれにくいですが、趣味の場では一消費者としていきなり一流の人と接することもできます。このように趣味の場だからこそ実際に挑戦して経験することで得られるものは多く、それを仕事に活かさない手はありません。

そして、仕事の場、趣味の場、それぞれで学んだことを相互に活かしていくと、自分の考え方や哲学のようなものが統一されてきて、相乗効果で仕事も趣味もますます発展していきます。

ついては、各Chapterに出てくる様々な考え方は、必ずしも仕事の場でのみ、あるいは趣味の場でのみ当てはまるとは限りません。広く生きていく中で使える考え方として横断的に見てもらえればと思います。

本書では、弁護士業界での仕事に限らず、司法試験受験時代や冒険のこと等、仕事に直

接関係のないエピソードも含めてお話ししていきます。なぜなら仕事もその他のことも、人生の一部であり、一生懸命に取り組む際の考え方は共通しているからです。

「意識が変われば考えが変わる。考えが変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば性格が変わる。性格が変われば人格が変わる。人格が変われば最後に運命が変わる」という言葉があります。まさにこの言葉の通り、意識を少し変えてみることが、全ての始まりです。

意識を変えるために、その一助になるような言葉や考え方を、本書から一つでも見つけていただければ、著者として嬉しく思います。

日本一稼ぐ弁護士の仕事術　目次

はしがき……002

Chapter 1
日本一稼ぐ弁護士の「仕事」の考え方

「ドリアンようかん」は好きですか？……021
今日から3年間、一度も「忙しい」と言わずに生活する……026
仕事の対価は、報酬と経験である……032
自分の年収とプロ野球選手の年俸を比べてみる……038

スピードと時間量は誰でも持ち得る武器である……041
不安の大半は自信や自尊心を喪失することへの心理的恐怖である……046
目的が成功ではなく「失敗しないこと」になっていないか……051
歳を取るリスクを意識する……056
挑戦前の無限・無数の不安は、挑戦後に具体的課題になる……058
一度も反対されたことのない成功者はいない……061
他人ができることは自分も必ずできる……064
目の前の挑戦を正しいものだと考える……067
今、熱中できるものに取り組めばいい……071
小さな夢や目標を作って進んでみる……074
夢や目標を持つのに遅すぎることはない……077
人生はボウリングではない……081
挑戦にまつわる困難や不安を「楽しみ」に変換する……084
「辛い」と「楽しい」は両立する……086
組織や資格、肩書に依存することが安定なのではない……092

大志よりも一日一日の積み重ねが大切 …… 095
普通のことを積み上げるだけで、十分な価値がある …… 098
誰でもできることを誰よりもやる …… 103
不公平を受け入れる …… 105
コラム❶ 「法律事務所」と「所属弁護士」 …… 110

Chapter 2

日本一稼ぐ弁護士の「仕事」のやり方

「できる、できない」ではなく、「する、しない」を考える …… 115
成功の具体的なイメージを描く …… 120
本来の締切期限を考えず、今を起点に作業を開始する …… 122
ゆっくり考えて1つを試すより、スピーディーに3つ試す …… 126
タスクを携帯アラームに登録し、空になるまで働く …… 129

ファーストドラフト感のある仕事をしない……134
成果物は必ず一日寝かせてから、再度確認する……138
困難に対する想定の範囲を広げる……140
集中度や時間量に応じた仕事をする……142
不得意なものを得意だと言ってしまう……145
パスワードで自己暗示する……147
苦手な相手には意図的に近づく……149
クライアント以上にクライアントを知る……152
上司やクライアントへの報告は金曜の朝までにする……154
過去に送信したメールを定期的に見返す……159
自分史上の伝説を作っているつもりで取り組む……161
経営者意識を持つ……164
恩送りを意識する……167
営業の秘訣……170
コラム❷ ストレスの正体は「幽霊」と同じ？……176

Chapter 3

日本一稼ぐ弁護士の「人生」の考え方・楽しみ方

24時間全てを活動時間に充てる …… 181
人からの誘いは内容を聞かずにOKする …… 184
仕事を理由にプライベートの約束を断らない …… 186
一期一会を大切にする …… 189
一度会った方には自分から連絡をする …… 192
心のフットワークを軽くして、好きになれるかもしれないものに挑戦する …… 195
偏見を持たずに、必ず一度は試してみる …… 198
二者択一ではなく、多くのことを同時に試してみればいい …… 201
一流に触れてみる …… 204

全力で熱中する……206
趣味に命を懸ける……208
人生が10回あればやってみたいことをする……211
肩書に縛られない……216
過去のキャリアとの連続性を考える必要はない……219
先入観を持たない……221
成功できそうにない夢や目標を持っても構わない……227
仕事と趣味の区別を設けない……230
自分の、自分による、自分のための人生を大切にする……232
終わりに……235